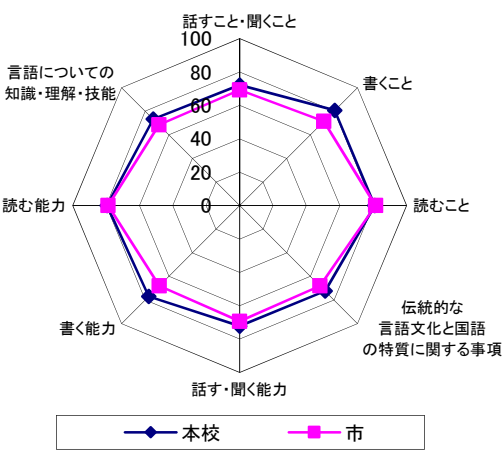


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.2	69.3	73.4
	書くこと	80.6	71.3	74.6
	読むこと	81.0	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.5	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	72.2	69.3	73.4
	書く能力	76.9	68.1	71.7
	読む能力	79.4	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	73.2	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

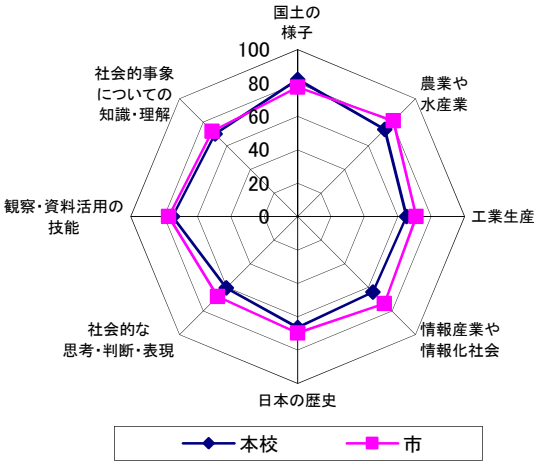
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は72.2%で、市の平均を2.9ポイント上回った。 ○司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとする問題の正答率は、市の正答率を4.9ポイント上回った。 ●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめる問題は、市の正答率を上回ったが、33.3%と低い正答率だった。	・国語の授業だけでなく、全教科で、相手の話の内容を確認しながら、自分の考えを分かりやすく伝える活動を継続していく。また、教室に掲示してある「話し方・聞き方」や「つながぎ言葉」を活用し、繰り返し指導していく。 ・国語の「話す・聞く」単元では、メモの取り方について丁寧に指導し、話し手の意図を聞き取り正確にまとめる活動を取り入れる。
書くこと	平均正答率は80.6%で、市の平均を9.3ポイント上回った。 ○2段落構成で文章を書く問題では、市の正答率を16.4ポイント上回り、91.7%の正答率だった。 ●グラフの内容を読み取って、文章に適切に書き表す問題では、市の正答率を上回ったが、59.7%と低い正答率だった。	・視写プリントや作文、日記指導など、日常的に書く機会を多く設け、自分の意図が読み手に伝わるよう意識して文章を書いたり、作文の基本的な表記の仕方を徹底して書いたりするよう指導する。 ・国語の授業において、文章を書くときには、資料の内容を読み取り自分の考えを適切に書くよう指導していく。
読むこと	平均正答率は81.0%で、市の平均を0.5ポイント下回った。 ○説明文の内容を的確に読み取る問題の正答率は、市の正答率を18.2ポイント上回った。 ●物語の場面の描写を読み取る問題の正答率が、10.6ポイント下回った。	・国語の授業において、今後も説明文を丁寧に読み取る活動を継続して行っていく。 ・物語文の単元では、登場人物の心情や場面描写を、文章表現と結び付けて深く読み取っていく活動を重視していく。 ・本校の特色である読書活動にもさらに力を入れ、物語文に抵抗がある児童にも読書を推奨し、本の内容に偏りがないように支援する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は72.5%で、市の平均を4.4ポイント上回った。 ○6学年配当漢字を読む問題の正答率は、100%だったが、5学年配当漢字を書く問題では、市の正答率より下回るものもあった。 ●言葉の学習では、敬語(尊敬語)の使い方を理解する問題では、市の正答率を7.5ポイント下回り、つまずきが見られる。	・漢字を書く力の定着を図るため、現学年の配当漢字だけでなく、既習学年の内容についても定期的に復習を行う。 ・日常生活の中で、その場の状況や相手に応じた正しい敬語の使い方を継続的に行うことにより、敬語について学ぶ機会を増やしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	82.2	77.5	74.0
	農業や水産業	74.0	81.1	73.7
	工業生産	65.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	63.9	73.7	63.2
	日本の歴史	66.4	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.5	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	74.9	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	70.0	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

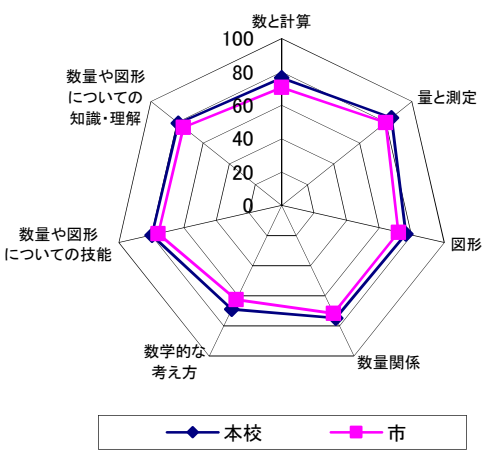
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は82.2%で、市の平均より4.7ポイント高い。 ○世界の中の国土の問題の正答率が高い。特に、日本の周囲の国の国旗について理解する問題の正答率は88.9%で、市の正答率より12.9ポイント高い。	・地図帳や資料集を活用し、都市の位置や気候を表すグラフを読み取れるようにしていく。 ・プリント等を繰り返し、知識として定着を図っていく。
農業や水産業	平均正答率は74.0%で、市の平均より7.1ポイント低い。 ○米の生産がさかんな地域について、資料を読み取る問題の正答率は、市の正答率より0.5ポイント高い。 ●日本の食料生産がかかえる課題について、資料をもとに考える問題の正答率は38.9%で、市の正答率より19.6ポイントと低い。	・農業で働く人々がかかえる問題について、デジタル教材や資料集を活用しながら、資料やグラフを読み取る力を育てていく。 ・日本の農業や水産業に関するニュースを積極的に取り上げ、身近に考える機会を設けていく。
工業生産	平均正答率は65.3%で、市の平均より5.8ポイント低い。 ○日本の食料自給率について、資料を読み取る問題の正答率は、市の正答率より1.5ポイント高い。 ●工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考える問題の正答率は61.1%で市の正答率より13.1ポイント低い。	・工業地帯・工業地域の立地について、地図帳を有効活用していき、興味をもてるようにしていく。 ・身の回りの工業製品が生活を支えていることを意識できるよう、日常生活の中で話題として取り上げたり授業で意識させていく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は63.9%で、市の平均より9.8ポイント低い。 ●身のまわりのメディアについて考える問題の正答率は66.7%で、市の正答率より4.6ポイント低い。	・情報化社会が進んでいるので、日常的なニュースを積極的に取り上げ、生活の中で情報がどのように生かされているのか考える機会をもてるようにしていく。
日本の歴史	平均正答率は66.4%で、市の平均より3.3ポイント低い。 ○竪穴住居を理解する問題の正答率は91.7%で、市の正答率より11.6ポイント高い。 ●大和朝廷による国土の統一の様子について、資料をもとに考える問題では、市の正答率を上回ったが、27.8%と低い正答率だった。	・言葉だけでなく出来事が起こった理由を考えていき、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設け、知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.5	70.8	65.9
	量と測定	84.3	79.9	77.0
	図形	76.4	71.8	74.6
	数量関係	74.8	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	68.9	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	79.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	79.2	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

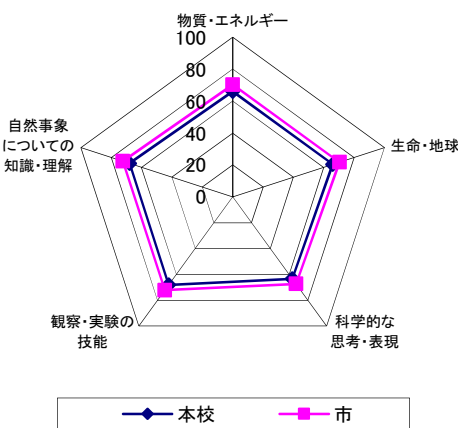
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は76.5%で、市の平均より5.7ポイント高い。 ○図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率が66.7%で、市の平均より17.0ポイント高い。 ●小数第一位×小数第一位の計算問題の正答率が69.4%で、市の平均より5.3ポイント低い。	・基礎・基本事項について、今後も計算ドリルを活用して繰り返し解いたり、ステップアップシートを活用して合格するまで何度も解き直させることを継続したい。また、既習の内容の復習を宿題や朝の学習で行い、確実な定着を図るようにする。 ・問題を読み取り、それを図や表で表し、数式を求める活動を行ってきた成果が表れた。
量と測定	平均正答率は84.3%で、市の平均より4.4ポイント高い。 ○図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ問題の正答率が88.9%で、市の平均より12.3ポイント高い。 ●ひし形の面積を求める問題の正答率が75.0%で、市の平均より1.7ポイント低い。	・単位量当たりの大きさについて、画像や動画などを活用して量の関係をイメージできるようにするとともに、数式と図(数直線)を結び付けるような活動を重点的に取り上げ、その確実な習得を図る。 ・多角形の面積の求め方は公式を覚えるだけでなく、既習の図形に変形して求めることも意識的に指導にあたる必要がある。
図形	平均正答率は76.4%で、市の平均より4.6ポイント高い。 ○線対称な図形で、対象の軸が4本ある図形を選ぶ問題の正答率が69.4%で、市の平均より17.4ポイント高い。 ●合同な三角形を作図する問題の正答率が75.0%で、市の平均より8.8ポイント低い。	・作図をする際に、全体的なイメージをとらえてから、どの値が分かれば作図できるかを考えたり、その値をどのようにして求めることができるかを考えたり、全体の見通しをとらえてから部分を考える指導を行っていきたい。 ・児童が作図したものを評価する際、正確さにも重点を置き、作図力を高めたい。
数量関係	平均正答率は74.8%で、市の平均より3.1ポイント高い。 ○反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題の正答率が54.2%で、市の平均より19.7ポイント高いが、課題が見られる。 ●どの資料から読み取ったことがらであるかを、複数の資料の中から選ぶ問題の正答率が75.0%で、市の平均より6.9ポイント低い。	・算数の授業の中だけではなく他教科や日常生活の中で、様々なグラフを読み取り、読み取ったことをペアやグループで共有し合う機会を作り、いろいろな見方と表現の仕方があることをに気付かせていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.1	70.3	69.0
	生命・地球	65.9	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	63.5	67.5	66.4
	観察・実験の技能	68.2	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	67.9	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は66.1%で、市の平均より4.2ポイント低い。 ○ふりこの往復する時間から周期を求める問題の正答率は、80.6%で市の平均より11.7ポイント高い。 ○導線の巻き数と電磁石の関係についての問題の正答率は88.9%で、市の平均より5.7ポイント高い。 ●水溶液に固体がとけているかを調べるための方法を求めた問題の正答率は52.8%で、市の平均より12.2ポイント低い。	・基礎基本の定着を図るため、既習の学習を振り返る場を計画的に設け、知識の再構築を図る。 ・実験方法を考えたり考察したりする際に、条件統制を意識させて取り組む。 ・日常生活で感じる疑問を大切にしながら、課題を日常の事象と結び付けて理解させる。 ・実験を行う際には、しっかり仮説を持たせるとともに、考察を自分の言葉で書くことで内容の定着を図る。
生命・地球	平均回答率は65.9%で、市の平均より4.5ポイント低い。 ○食物連鎖の説明についての問題の正答率は83.3%で、市の平均より6.1ポイント高い。 ●植物のつくりとはたらきの問題では、全体的に市の平均を下回っている。植物の茎の組織の問題の正答率は50.0%で、市の平均より6.3ポイント低い。	・日常生活で活用できる場面を考えながら学習させることによって、学習の意欲を高めると共に、知識の定着や活用力の向上を図る。 ・実験の方法を考えたり、予想や仮説を立てたりする際には、教科書に載っていることだけではなく、既習事項や生活体験を基に自由に考えさせることによって、科学的な見方の多面化を図る。 ・実験や観察をする際には、実物を扱うと共に、動画や模型など視覚的情報を積極的に取り入れることで、理解を深める。

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	6年生の算数に関しては、どの領域も市の平均正答率を超えている。特に図から面積と人数の割合を求める問題では12ポイント上回っていた。国語の「書くこと」の領域では市の平均を9ポイント以上も上回る高い正答率だったが、6年以外の配当漢字では、正答率が低い問題もあった。
授業の学び合い活動の充実に向けた工夫	授業の学び合い活動において、指導過程を工夫したり振り返り活動を継続したりすることにより、言語活動の充実や表現力の育成を図る。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的回答した児童の割合は、2・5年が市の割合を上回った。また、「自分の考えを根拠をあげながら話す(3年以上)」については、4・5・6学年が市の割合を上回った。 「ふだんから『ふしぎだな・なぜだろう』と感ずることがある」の質問については、市の肯定的回答を下回った学年もある。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	「宿題はきちんとやっている(1・2年)」の肯定割合は100%に近く高い割合を示した。「自分で計画的を立てて家庭学習に取り組んでいる(3年以上)」に肯定的回答をした児童の割合は3・4年は市の平均をやや下回ったが、5・6年は80%を超え市の平均を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・市・県・国の学力調査の結果から、6年生の「書くこと」については、4月の全国学力調査に比べ12月の学習内容定着度調査結果の平均正答率が大きく伸びた。視写プリントや日記指導等を継続したことにより、書くことに抵抗なく取り組むようになったと考える。今後もプリント等を活用し、目的をもって文章を書く機会を意図的に取り入れていく。

・「話すこと・聞くこと」についての平均正答率は、学年の差があった。また、普段から興味関心を持ち主体的に学習に取り組むことについても課題が見られた。今後も、授業において見通しをもって粘り強く学習に向かわせたり、対話的な学びを意図的に取り入れたりして、言語活動の充実や表現力の育成を図っていきたい。

・家庭学習について「宿題はきちんとやっている」「自分で計画的を立てて家庭学習に取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合は市の平均を上回っている学年が多く、本校で実施している自主学習の取組の成果が表れてきていると考える。学力の定着を図るために、今後も、継続して宿題の内容や効果的な自主学習を提示するなどして、家庭と連携を取りながら家庭学習の充実に努めていきたい。